



なすびの花

発行者：検査課

掲示期限：令和7年11月28日（金）

掲示許可：総務課

2025年品質月間に向けて

毎年11月は品質月間で、品質意識を高める取り組みを行う期間となっています。

もちろん、この1ヶ月だけ品質のことを考えれば良いということではありませんが、11月は特に品質について、改めて見つめ直してみましよう。

今年のテーマは、

“今こそみんなで考えよう！”

「これからの品質の力」

です。

今年の品質月間委員会委員長の言葉の中に、『品質は物事の良し悪しを評価するものであり、人が協力する際の共通の目標やありたい姿を表現するものと言えます。』

という一文があります。

「この中の『ありたい姿』が、職場での品質の感覚にとっても大切なことだと感じています。」

『あるべき姿』は、よく様々な品質管理のテキストなどに書かれています。

製造工程において不良品を発生させないこと、発生した時には、同じ不良品が発生しないように、現状を分析し、原因を追究し、再発防止に努め、不良品が発生しなくても、日常的に、職場改善をする、といったことがあるべき姿ですね。

安定した品質の維持管理、顧客満足度の向上、PDCAサイクルを回すこと…等々、品質管理で大切なことはたくさんあります。

さて、私たちの品質意識はどうでしょうか。

『ありたい姿』を心に描いている人がたくさん居ると良いと思います。

先日、工場のパトロールに参加した時に、作業をされている方から、

『私たちにも、監査の結果やお客様の声を共有してもらいたいです。』

との声が挙がっていました。

『ありたい姿』を描いている方からは、こういった意見が、自然と出てくるのではないのでしょうか。

実際に、社内で発生した品質問題の周知や、是正処置内容、品質問題についてのお客様のご意見、お客様から賞賛された内容などの共有は、作業に携わっている方たちにとって、品質意識向上の良いきっかけとなります。

管理者の皆さんは、品質問題の周知だけでなく、問題点の背景、それから、お客さまの嬉しい声も、必ず作業されている方に届けていただきたいです。きつと全体のモチベーションに繋がって、品質意識の向上、そして品質の維持向上が期待できます。

現場の作業者の声はとても大切です。

コミュニケーションをしっかりとって、管理者の皆さんの思いと、作業者の皆さんの思いが、良い感じに繋がると、とても良い環境になりますね。

守破離

守破離（しゅはり）という言葉があります。

守破離は、千利休が、茶の湯の作法や心得を説いたものです。

『基本を学び、しっかり守って 自分のものにする。次に、自分の工夫を加える、臨機応変の処置ができる。そして、自分流のものを創る。しかし基本から離れても元を忘れてはならない』

という、知識やスキルを習得し、成長していく過程を示した言葉です。

型を身に付ける第一段階が、『守』、型を応用・改良する第二段階が、『破』、型から独立する第三段階が、『離』です。

入社からベテランに至るまでの流れとしては、

〈守〉… 基礎となる部分は、確実な理解と実践を重ねてしっかりと土台を作ることが大切です。

〈破〉… 基礎となる下地がしっかり整ったら、今までの内容を改善します。

〈離〉… 大切な根本は残したまま、アレンジを加えて自分独自のものにします。

といった内容で、基本は一番大切な部分です。

入社して日の浅い方に対しては特に、雑務から手を抜かず、基礎にきっちり取り組み、前向きに、明るく、大きく成長してもらいたいと思っています。